# 令和７年度
# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
# 成果報告書
# ①（基礎データ・公演事業の実績値等）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 公益財団法人竹田市文化振興財団 |
| 施設名 | 竹田市総合文化ホール |
| 内定額 | 1,628　（千円） |

# （1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

| 事業番号 | 事　　業　　名 | 実施日程 | 実施会場 |
|---|---|---|---|
| 普-01 | グランツ音楽館 Project“リサイタル”～芸術性(リサイタル)と親近感(アウトリーチ):滞在型演奏活動～ | 令和7年6月2日～<br>令和8年3月8日 | 廉太郎ホールほか |
| 普-02 | グランツ音楽館 Project “キナーレ” ～鑑賞アシスト付名曲コンサート～ | 令和7年5月22日～<br>令和7年9月28日 | キナーレほか |
| 普-03 | グランツ音楽館 Project “ジャズ” ～参加型ジャズライブ～ | 令和7年11月1日～<br>令和7年11月2日 | キナーレ |
| 普-04 | 瀧廉太郎顕彰コンサート | 令和7年12月20日～<br>令和8年1月17日 | キナーレおよび廉太郎ホール |
| 普-05 | 市民創作劇プロジェクト | 令和7年7月5日～<br>令和8年2月23日 | キナーレほか |
| 普-06 | DRUM TAO～和太鼓ワークショップ＆ライブ～ | 令和8年1月18日～<br>令和8年3月7日 | キナーレ |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

## （2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 年間事業本数（※1） | 主催事業 | 11 | 10 | 11 |
| | 公演事業 | 1 | 1 | 0 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 0 |
| | 人材養成事業 | 2 | 2 | 2 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 0 |
| | 普及啓発事業 | 8 | 7 | 9 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 6 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | （内、本助成対象事業本数） | | | |
| | その他　内容：　記入してください | | | |

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 貸館日数 | ホールごとの貸館日数 | 291 | 308 | 405 |
| | ホール名：廉太郎ホール　座席数：692 | 82 | 98 | 122 |
| | ホール名：キナーレ　座席数：170 | 209 | 210 | 283 |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

| 項　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 施設利用者数（※2） | 主催事業入場者・参加者数 | 4,121 | 3,288 | 3,855 |
| | 公演事業 | 636 | 278 | 0 |
| | 人材養成事業 | 503 | 531 | 487 |
| | 普及啓発事業 | 2,982 | 2,479 | 3,368 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | その他　内容： | | | |
| | 貸館事業入場者・参加者数 | 23,836 | 22,097 | 21,782 |
| | その他　内容：共催事業 | 3,074 | 4,043 | 1,813 |
| | 計 | 31,031 | 29,428 | 27,450 |
| 開館日数 | | 310 | 308 | 308 |
| 施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数）） | | 306 | 307 | 305 |
| 施設の利用日数 | | 241 | 258 | 257 |
| 施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数） | | 78.8% | 84.0% | 84.3% |

| 備考 | |
|---|---|

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

## 【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

| 事業種別 | | 事業本数 | 公演回数 | 入場者・参加者数 | 事業本数内訳 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 演劇 | 音楽 | 舞踊 | 伝統芸能 | 演芸 | 総合（※3） | その他 |
| 令和5年度 | 主催公演（※1） | 1 | 1 | 636 | | 1 | | | | | |
| | 共催・提携公演（※2） | 8 | 9 | 3,074 | | 7 | | 1 | | | |
| | 貸館公演 | 41 | 41 | 6,150 | 2 | 21 | 1 | 2 | | 2 | 13 |
| | 計 | 50 | 51 | 9,860 | | | | | | | |
| 令和6年度 | 主催公演（※1） | 1 | 1 | 278 | | | | 1 | | | |
| | 共催・提携公演（※2） | 10 | 10 | 4,043 | 1 | 7 | | 2 | | | |
| | 貸館公演 | 33 | 52 | 7,110 | 1 | 12 | 2 | 2 | | 1 | 15 |
| | 計 | 44 | 63 | 11,431 | | | | | | | |
| 令和7年度 | 主催公演（※1） | 0 | 0 | 0 | | | | | | | |
| | 共催・提携公演（※2） | 10 | 10 | 1,813 | 1 | 7 | | 2 | | | |
| | 貸館公演 | 29 | 37 | 6,020 | 2 | 12 | 1 | 2 | 1 | | 11 |
| | 計 | 39 | 47 | 7,833 | | | | | | | |

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

## （3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

| 事業番号 | 事業名 | | 入場者数 | 入場者率 | 評価指標 | 目標（値） | 実績（値） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

# 令和７年度

# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

# 成果報告書

# ②（評価）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 公益財団法人竹田市文化振興財団 |
| 施設名 | 竹田市総合文化ホール |
| 内定額 | 1,628　　（千円） |

## （1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

| 事業番号 | 事業名 | 自己評価 |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

※行が足りない場合は適宜追加してください。

## （2）自己評価

## 評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。<br>・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。<br>・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。<br>・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） | |

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| | 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|---|
| 公演事業 | | | |
| 人材養成事業 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 普及啓発事業 | **指標（①-1）**グランツ音楽館（普-1,2,3）における来場者数増加<br>**指標（①-2）**申請事業全体の新規来館者率<br>**指標（①-3）** 既存事業（普-1,2,3,4）のリピーター率<br><br>**指標（①-4）**ワークショップ参加者数（普-1,2,3,5,6）<br>**指標（①-5）**携わった人々の反応（普-1,2,5,6）<br><br>**指標（①-6）**地元実演芸術団体の満足度<br><br>**指標（①-7）**市民創作劇の年間通しての継続参加者数<br>※継続参加者＝フィールドワークから公演当日まで関わる参加者 | **目標数値（①-1）**前年度比 10%増加<br><br>**目標数値（①-2）**新規来館者 8%<br>**目標数値（①-3）**過去の同公演に参加した観客の率 25%<br><br>**目標数値（①-4）**ワークショップ参加者総数 80 名<br>**目標数値（①-5）**関係者満足度 75%<br>※関係者＝ワークショップ講師、連携団体関係者など<br><br>**目標数値（①-6）**「学びや発見があった」と感じる人の割合 80%<br>**目標数値（①-7）**市民創作劇での継続参加者 30%<br>※出演者定員のうち継続参観者の割合で算出 | **実績値（①-1）**18%増<br><br>**実績値（①-2）**21%<br>**実績値（①-3）**22%<br>※普-1,2,3 全体で集計するとリピーター率 64%<br><br>**実績値（①-4）**91 名<br><br>**実績値（①-5）**97%<br><br>**実績値（①-6）**100%<br><br>**実績値（①-7）**<br>出演者定員のうちワークショップ参加者 60%<br>出演者定員のうち物語つむぎ隊登録者 15% |
| 共生社会事業 | | | |

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

| 公演事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 人材養成事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 普及啓発事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | 公演により差が出たことは課題であるものの、全体の来場者数は前年度比 18%増となり一定の成果があったと考えます。リピーター率については普-01,2,3,4 それぞれの過去公演に限定すると 22%と目標値を下回りましたが、普 01,2,3 をクロス集計すると過去いずれかに参加した方は全体の 64%にものぼり、「リサイタル／キナーレ／ジャズ」という枠組みではなく「グランツ音楽館」という枠組みで観客が楽しんでいることが伺えました。関連ワークショップに参加した人数も前年度実績を上回り満足度も高かったことから、一定の成果があったと考えます。<br><br>市民参加の創作劇については、出演者定員のうちワークショップ参加者は 60%でしたが、ワークショップから本公演に継続参加した方は 87%、物語つむぎ隊として取材から出演まで関わった方は 75%にのぼり、高い水準を記録しました。そのほか、取材対象者が 2 名出演者として参加したり、親子での参加も見られたりするなど、多様な関わり方で市民が意欲的に創作事業に取り組んでいたことが伺え、一定の成果があったと考えます。 |

| 共生社会事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

# 評価項目②：国際性（任意）

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。<br>・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。<br>・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※２） | |

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※３） | 目標（値）（※４） | 実績（値） |
|---|---|---|
| | | |

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

## 評価項目③：地域文化拠点機能

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。<br>・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。<br>・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 | |
| | ・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２） | 利用者ニーズを的確に把握し、満足度の向上が図られている。 |
| | ・自由設定の観点（任意）（※３） | |

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※４） | 目標（値）（※５） | 実績（値） |
|---|---|---|
| **指標（③-1） 劇場へ関わる市民の増加**<br>市民ボランティアのフロントスタッフ新規登録者数 | **目標数値（③-1）**<br>新規登録者数 5 名(現状 24 名) | **実績値（③-1）** 5 名 |
| **指標（③-2） シビックプライドの醸成**<br>「地域に愛着や誇りを感じる」と回答する人の割合(普-4 および普-5 の観客アンケートにより測定) | **目標数値（③-2）**<br>アンケート回答者のうち 45%以上 | **実績値（③-2）**76% |
| **指標（③-3） 子ども参加者数**<br>申請事業全体での子どもの参加者数 | **目標数値（③-3）**<br>400 名以上 （※子ども＝高校生以下と定義） | **目標数値（③-3）**403 名 |
| **指標（③-4）地域住民の生きがい醸成**<br>市民参加型事業参加者の達成感（普-4 および普-5 の参加者アンケートにより測定） | **目標数値（③-4）**<br>アンケート回答者のうち 70%以上が達成感を感じている | **目標数値（③-4）**92% |
| **指標（③-5）利用者のニーズ把握および満足度向上**<br>貸館利用者の満足度（貸館使用者アンケートにより測定） | **目標数値（③-5）**<br>アンケート回答者のうち 70%以上(※「とても満足」「満足」の合計数にて算出) | **目標数値（③-5）**94% |

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | 市民ボランティアの新規登録者やワークショップの子どもの参加者数については、目標値をクリアすることができました。次年度は更なる充実を目指したいと考えています。<br>シビックプライドの醸成については観客の 76%が竹田の町に対して「より好きになった」と答えており、次年度の市民創作劇に「何らかの形で関わってみたい」と答えた方も 26%にのぼったことから、市民参加の創作活動がまちへの愛着増加や活性化に影響があることが伺えます。<br>また、ワークショップ講師の地元実演団体や市民創作劇の出演者については 92%が達成感を感じており、特に「創造力・好奇心・責任感」について以前より増したと答えています。<br>利用者の満足度向上については、貸館利用者の 94%が「全体的に満足」と回答しています。「不満」の番号にチェックをした方も自由記載欄を読んでみると「要望は特になく、これからも使いたいです」と答えており、全体的に満足度の高い結果となりました。 |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

# 評価項目④：多様性とアクセシビリティ

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。<br>・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。<br>・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） | |

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|
| **指標(④-1)**<br>**アクセシビリティの維持と観客の多様さ**<br>未就学児から高齢者まで、誰もが気軽に身近な場所で鑑賞できる機会を提供するため、市内の全小学校と全公民館でアウトリーチコンサートを実施します。<br>**測定方法：**申請事業のアウトリーチ実施回数 | **目標数値（④-1）**<br>全小学校および全公民館で実施（計 14 回）<br>・市内小学校 10 校<br>・市内公民館（またそれに準ずる施設）4 館 | **実績値（④-1）**<br>全小学校および全公民館で実施（計 14 回）<br>・市内小学校 10 校<br>・市内公民館（またそれに準ずる施設）4 館 |
| **指標(④-2）プログラムの多様さ**<br>本格的なリサイタルから音楽初心者向けレクチャー型コンサートまで、誰もが満足できるプログラムを提供します。<br>**測定方法：**普-1、普-2 の実施回数および満足度※観客数は評価項目①：創造性・企画性により測定 | **目標数値（④-2）**<br>普-1（リサイタル）<br>2 公演で満足度 80%以上<br>普-2（レクチャー型）<br>2 公演で満足度 80%以上 | **実績値（④-2）**<br>普-1　88%<br>普-2　85% |
| **指標(④-3）市民の相互理解**<br>少子高齢化や移住者の増加など多様化する市民の相互理解を深めます。<br>**測定方法：**普-5（市民創作劇プロジェクト）において、参加者および観客アンケートを実施し「住民理解が深まった」と感じる人の割合を測定 | **目標数値（④-3）**<br>参加者および観客全体の 40%以上 | **目標数値（④-3）**<br>69% |

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | アクセシビリティの確保としては目標通り市内全小学校と旧１市３町にあたる４地域の施設でアウトリーチを実施することができました。普-01,2 においての公演満足度に関してはいずれも高い評価を得ており、満足度の高さが①創造性・企画性での自己評価でも書いたようなリピーターの獲得につながっていると考えます。<br>相互理解については、観客の 69%が「竹田の人々の営みや歴史についての発見があった」と答えており、目標数値を大きく超えることができました。自由記載欄には「作中に登場した店舗を後日訪れたい」「(作中に登場した）ケチャップを買って帰ります」などの記載もあり、相互理解だけでなく経済活動にも影響をもたらすことができたのは大きな成果のひとつと言えます。 |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

# 評価項目⑤：自由設定（任意）

| | |
|---|---|
| 評価の観点 | ①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２） |
| | ・<br>・<br>・ |

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※３） | 目標（値）（※４） | 実績（値） |
|---|---|---|
| | | |

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （2）自己評価

## その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

（普-01）
○学校アウトリーチの翌日に地域コンサート会場でリハーサルをしていたところ、同じ公民館を利用していた子どもから「コンサートには行けないの」との相談をうけ、アーティストの厚意もあり低学年の妹と共にリハーサルを見学してもらうことができました。その際、妹に向かって楽器の特徴や出前授業ですごいと思ったことなどを小声で説明しながら一緒に聴く姿が見られ、姉妹にとって良い思い出になったのではないかと感じました。

（普-02）
○城下町エリアでの地域コンサート実施時には、ガラス張りの会場だったことから買い物帰りの市民や旅行者などが飛び込みで入場し、何気ない場所で音楽やアーティストと出会う体験を提供することができました。

（普-03）
○通常のジャズライブのように「聴く」だけでなく、「参加する」ことができる公演を目指しワークショップとライブを 2 日連続で実施しました。ワークショップに参加した市内の主婦は 30 年ぶりに楽器を手にしたとのことで、「生活のなかで再び音楽を楽しむ」機会を提供するきっかけとなりました。

（普-04）
○瀧廉太郎にちなんだお菓子やグッズの販売を地元企業や竹田市商工観光課などと協力して実現させ、官民連携につなげるとともに来場者に対する地域の PR としても役割を果たすことができました。
○未就学児入場可とし開演前のアナウンスにおいても未就学児に対する配慮を促す工夫をおこなったところ、幅広い世代で安心して楽しむことができ、公演形態の選択肢を広げることにつながりました。

（普-05）
○出演者として参加した中学生から「違う世代の方とのコミュニケーションが楽しい事なんだと実感した」という声が聞かれ、コロナ禍や人口減少で減ってきていた世代間の新たな交流が生まれました。

（普-06）
○ 7 歳の子どもから 70 代の高齢者、外国人や車椅子ユーザーなども参加し、多様な方々が気軽に劇場へ足を運び、和太鼓という伝統楽器の魅力に触れることができました。
○講師として参加したメンバーからは「子どもの目線に立って考えることができた」「コミュニケーション能力が非常に増した」との回答が寄せられ、育成の観点からも一定の成果を得ることができました。

## （２）自己評価

# 評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ア）多様な財源の確保<br>予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。 | （イ）広報・営業力<br>広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。 |
| 現状（※１） | 指定管理料のなかで自主事業費を積算していただいているほか、市民からの寄附金募集、（一財）地域創造や県の助成金などを活用している。 | ラジオやケーブルテレビなどの協賛によりマスメディアを活用した定期の情報発信を行うほか、友の会で毎月情報をメール送信している。 |
| 目標(値)（※２） | ・寄付件数 16 件（昨年度 15 件） | ・友の会 会員数 20 名増<br>・新聞への記事掲載 10 件（昨年と同水準） |
| 実績(値) | ・寄付件数 14 件 | ・友の会 会員数 44 名増<br>・新聞への記事掲載 13 件（うち対象事業 10 件） |
| 団体の自己評価 | 昨年度より１件少なくなったが、その１件は令和８年度に再度寄附していただく運びとなった。継続寄付者と良好な関係を保つことを大切にしたうえで、新規拡大に努め安定した事業運営に繋げたい。 | 昨年度に引き続きマスメディアを活用した情報発信と友の会での定期的な情報提供を行った。会員数は目標の倍となり、マスメディアからの情報発信についても昨年度を上回ることができた。さらには全国放送などでも取り上げられる機会があり大きな成果があったと言える。 |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ウ）他館連携<br>他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。 | （エ）設置者<br>円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。 |
| 現状（※1） | 公立文化施設協会九州支部での定期ミーティングなど他館との情報交換に努めるほか、独自で「ピアレビュー」を実施し類似他館職員に今年度の事業評価を依頼中。 | 設置者である竹田市担当課の職員が当館へ出向しているほか、定期的な情報交換の場を持ち意思疎通を図っている |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | 今年度は公立文化施設協会九州支部オンラインミーティング運営委員会として、他館との連携をより深めることができた。また「ピアレビュー」についても九州圏内4館の公立文化施設スタッフと共に事業視察や事業に関する意見交換などを行い、内部評価の指標のひとつとして活用している。 | 設置者である竹田市の職員出向のほか、市の担当課長との定期的な協議の場を設けるなど意思疎通を図り、財団化から5年を経て第二期指定管理を受けることにつながった。 |

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （オ）芸術監督<br>芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。 | （カ）長期的経営<br>長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。 |
| 現状（※1） | 適切なアーティスト選出や効果的で効率的な運営方法についての助言を受けるため、チーフプロデューサーとして小澤櫻作氏に委託を行っている。 | 公益財団法人化したことで長期の人材確保が可能となり、職員の半数以上が実務経験3年以上となっている。 |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | アーティスト選出や持続可能な運営について今年度もチーフプロデューサーより助言を受け実施した。(2026年3月で退任) | 実務経験3年以上の職員のほか、今年度新たに1名のプロパー職員を採用し、より充実した長期的運営に向けての体制を整えた。 |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （キ）専門人材の確保<br>今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。 | （ク）職制の整理<br>芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。 |
| 現状（※1） | 長期雇用により人材育成を可能にし、３年以上の雇用を可能にしたことで専門性を深める機会を確保している。 | 各職務に応じた事務分掌と人材配置がなされており、其々が連携しながら実務にあたっている。 |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | 経験年数の長い職員が増えたことで組織内での指導が充実するほか、外部研修にも積極的に参加し専門人材の育成に努めている。 | 業務に応じた事務分掌と、専門性に応じた適切な人材配置に配慮している。 |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ケ）世代間バランス<br>年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。 | （コ）ジェンダーバランス<br>女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。 |
| 現状（※1） | 新卒者から定年後の再雇用で職員となった者まで様々な年齢や立場の人材を確保している。 | 職員 10 名のうち男女のジェンダー比率は３：２、うち女性管理職は２名である。 |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | 新卒者の育成に努めているほか、新規職員募集においても職種に応じて幅広く行っている。 | 今年度のジェンダーバランス比率は現状と変わらず。今後も維持をめざす。 |

| 評価の観点 | （サ）ワークライフ・バランス<br>仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。 | （シ）コンプライアンス順守<br>情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | 財団職員は行政職員と同程度の福利厚生を定めている。 | 情報セキュリティについては財団の個人情報保護規定に基づき適切に管理しており、コンプライアンス研修等については現在検討中である。 |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | 今年度も同様の水準で制度を定めている。 | 個人情報保護や労務管理など財団内の規定に応じ、適切な管理・運営につとめている。研修については他館からの情報把握などにも努めながら引続き検討する。 |

| 評価の観点 | （ス）ハラスメント防止対策<br>職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。 | （セ）適正な契約事務<br>アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | ハラスメント研修においては公立文化施設協会主催の研修に職員を派遣するなど対策を行っている。 | 職員が契約についての研修に参加しているほか、随時内容について双方協議を行い契約を実施している。 |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | 公立文化施設協会主催の研修に参加するほか、財団職員研修においても今年度はハラスメント防止についての研修を実施した。 | 財団が定める財務会計規程に基づき、随時内容について双方協議を行いながら適切に実施している。 |

## （3）総評

※太枠内に記入してください。

| 団体の自己評価 |
| --- |
| 今年度は公演ごとの来場者数に大きな差があったものの、全ての指標において概ね目標値を上回ることができました。観客拡大の観点において、時流を見極めた人選や適切なタイミングでの情報提供などに気を配るとともに、少子高齢化の進む竹田市において地域の人々の興味関心へ繋がるような広報の仕方は、今後より一層重要性を増してくると思われます。地域とアーティストとの交流を基軸にしながら当劇場の信頼を獲得していくための工夫を継続し、竹田市をはじめ奥豊後地域の文化芸術の活発化と成熟に今後も務めていきたいです。 |

| 備考 |
| --- |
| |